日　本　印　象　記 I

——外国人天文学者による——

世界の天文学者の分布を見ると，アメリカ・ヨーロッパ（東欧諸国を含む）に集中していて，アジア地域では日本が例外的に多い．このような情況のもとでは，他国の天文学者との交流は日本人天文学者がアポロ計画で景気の良かったアメリカに行く事によって保たれてきたと言っても過言でないような時が長く続いた．

しかし，近年，学術振興会による外国人招聘の可能性がほんの少しばかり増えた事や，日本の近隣諸国でも天文学に力を入れ始めたので（又，日本の天文学の実力が世界に認められ始めたのでもあろうが），割に外国人天文学者が日本を訪れるようになり，又，長期に滞在する人の数も増えている．

そこで，目下滞在中の方々に日本（日本の天文学界）の印象記を書いてもらい，今までの外国人の中の日本人とは違った印象の日本（天文学界）が表現されるのではと編集部では期待して，この企画を行った．

まず，今月は東京大学理学部で連星系の研究をしている金氏，京都大学工学部で銀河系の構造の研究をしているソレンセン氏に書いてもらった．

（編集部）

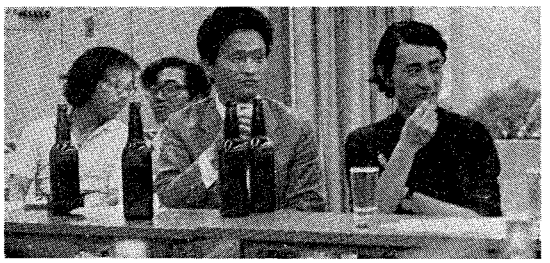
日本留学の雑多感想

東京大学天文学教室　**金　斗　煥**

まずこの機会に3年前の来日以来無事勉学に励む事が出来たことに付き国費留学生の世話役皆さんと天文関係の方々に心から厚くお礼を申し上げておきたいと思います．地理的，歴史的にも地球星では一番近い隣の国から留学しただけにぼくなりの期待と予想が沢山有ったに違いありません．日常生活の有り様や社会構造，物の考え方等はずい分似ているが半面，ぼくの想像以外の異常(?)もよく見当るので修論準備の最中だけれどちょっとその事についてお話しして見たいと思います．紙面の限りがあるので筋合が立たない話になるかも知りませんが理解していただければ幸と思います．

4月のなかば雨の羽田空港に着いた翌日さっそく一人で生れ初めての地下鉄で本郷東大に行きました．地下鉄を降りて外に出ると圧迫されていた胸が急に飛ぶように軽くなりました．初めは健康に悪いと思った事もあるが東京のような複雑な大都会では地下鉄の存在は欠けられない便利な物だと考え直しました．昨年ソウルでも地下鉄が開通したがいつか帰国して地下鉄を乗れば日本で初めて乗った時の思い出が浮ぶでしょう．

東大正門をはいった瞬間錯覚を起しました．茶色の建物とか銀杏の樹木を見ているとソウル大学に逆戻りしたようでした．両方とも昔の帝国大学の風格でした．どの世界，どの時代でも有るかのように愚かな一部特権層の非良心的な国扱いの歴史の結果が今ここにも残されていると思うとこれからもこのような不運の歴史を繰り返さないよう国民一人一人が努力しなければならないと再三思われました．



左より谷川・出口・金・井口
野球の後のビールパーティー

次に驚いたのはキャンパスの回りがあまりにも不潔だった事です．どこにでも汚い字の張り紙とかビラ等のくずで汚ごされていました．初めは理解できなかったが日本はデモとストライクの天国である事が分かりました．例の春闘は何時頃終止符を打つか先ざき期待しています．

日本の電鉄は揺れないし郊外に出る時も本当に便利になっています．人の心まで気楽に成ったせいか若者で席を譲る人はごく少いと思います．何か熱心に見ています．車内で何か読んでる乗客が多いのにびっくりしました．出版，言論界等のマスコミが盛んである事も理解できます．来日間も無い頃だったがある日スマートな背広姿の紳士風の若者が何かまじめそうに読んでいるのを見て彼に対し好感を持ちながらそばによってのぞいて見ると何んと子供が好きそうな漫画を見ているのではありませんか！今見るとそれは大人用の漫画である事が分かりました．今だに不思議に思っています．それと同じ位い

興味を持ってるのは日常の言語生活です．戦禍も少い日本は美しい自然を沢山持っており又，全国どの地方でもその地元のお祭りが楽しく行なわれ日本の固有文化の伝統が守られているのになぜ言語生活では自分の言葉を守らないか分かりません．漢文化圏だけに漢字や漢字語を使うのは当然だし又，和語や漢字語にも無い外来語や学術語を使うのもごく自然的だけれど，自国語で立派な言葉がありながらよその物を使うのは日本の国語政策を分からない限り理解できないと思います．ちょっと例を上げて見ると，「パパ」「ママ」「ハンスト」「ダメージ」「メリット」……それに外国語自身を略して，「バイト」かの有名な爆破事件の「マイト」事件……このような単語が大衆に一番影響の大きい新聞やテレビで使ってるから，ぼくとしては納得できませんでした．でも新聞，雑誌等がどんな言葉を使おうと自由奔放にペンをふり回す事のできる言論の自由には大歓迎でした．昔からのことわざのごとくペンは権力（剣）より強い事実を証明している見たいです．一筆により日本一の権力者を倒した事はウォータゲート事件と並んで無冠帝王の勝利と思います．

日本の電鉄は庶民にとって非常に便利な足になってるが庶民のバスは不便だと思います．自家用車の無い者でちょっと離れた郊外の団地等で住んでる住民や三鷹天文台で夜遅くまで残る人達はよく感じると思います．ぼくのように走るのが好きな人は夜バスが運行しなくても西調布まで 13 分 30 秒位で走れるからいいがそうでない人は料金の高いタクシーを乗らなければなりません．このような事は全部マイカーが多すぎるからと思います．子供達が夢中で遊んでいるせまい道まで車が突込んで来てはかなわないと思ってます．

初めて三鷹天文台に来た時びっくりしました．町の真中にあったからです．人口が増えると食糧住宅の問題だけで無く観測所とか OD 問題にまで大きい影響を与えている事が分かります．東京天文台の談話会に出るたびに多勢の研究者達が活発な議論を展開しているのを見ると何時我国でもあのような光景を見られるかと考えてしまいます．昔我国も千年もずっと前統一新羅時代にすでに胆星台と言う天文観測用楼台が建てられており，今にもその誇高き姿が幸にも数多い外侵の戦禍から逃れ慶州に残っているけれど，天文学が学科としてソウル大学に設けられたのは実に日本より約一世紀も遅いと言う事は何を意味しているでしょう！ 幸にして最近我国でも国立天文台を持てるように成り先祖に対しちょっとでも面目を立てる事が出来たと思います．ここで天文台建立の為め八方に努力して下さった方々に感謝している事を申し上げます．まだ小型だけれど天気が日本より遙か恵まれているので良い観測ができると思います．昔と違ってこれからの両国は国民同士の真の交流が要求されるだけに雑音の多い政治や経済交流より天文学のような純粋学問とか人道的立場に基くいろんな民間交流を通じてお互いなかの良い関係を結ばれるよう希望しています．

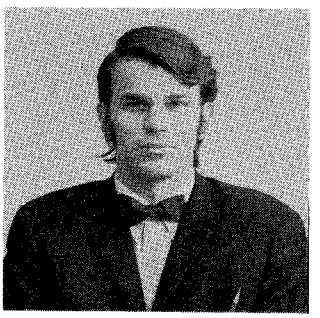
（原文のまま）

日本天文学界に寄せて ——その印象——

京都大学・工・航空工学教室・桜井研究室　**S.A. ソレンセン**

科学が，唯一の真の万国共通の世界だと一般によく言われている．これは少し言いすぎかもしれないが，あらゆる点で真実と言える．興味の対象は，国境を越えて，互いに重複し，研究の方法の違いは，国民性に寄るよりも，個人の趣向に基づくものである．だから日本の天文学界を他から引き離して，それについて私の意見を述べるという事は，一見困難のように思える．

私は，2年前，デンマークのオールフス大学（オーレ・レーマー天文台）から日本に来た．オールフス大学は，コペンハーゲン大学についで，デンマークで二番目に古く，規模も大きい大学（学生定員 1,5000 名）である．そういう点でオールフス大学は，現在私が所属して研究を進めている京都大学（航空工学教室・桜井研究室）と似ている．それにもかかわらず，いろいろの違いがある．そのひとつは，日常研究生活の中で出くわす，文化的背景の違いである．しかし，この違いは非常に抽象的な形で現れ，それに私の妻が日本人であるために，それは私にはあまり気にならない．



もっと具体的な違いは，日本ではおびただしい数の科学者が，天体物理の問題に興味を持っていることである．これは，デンマークより 20 倍も人口が多いという事実からだけくるのではなく，専門的な天文学の分野以外で，これらの問題を研究している研究者の数からくるものである．私自身，理学部に属せず，天体物理に直接関係の